

説明：

近代的な屠畜の手法と、イスラームにおいて義務付けられる手法との比較。第二部：屠畜における近代的手法とはどのようなものか、そしてそれは人道的手法に準じたものなのか。

より M . アブドッサラーム

掲載日時 24 Dec 2012 - 編集日時 24 Dec 2012

カテゴリ：[記事](#) > [イスラーム的システム](#) > [健康と栄養](#)

屠畜前に行われる近代的な気絶法

屠畜におけるイスラーム的 ユダヤ教的な手法を批判する者たちは、動物たちの喉が切られる前には任意で気絶処理を施すべきであるとする1901 (a) が適用されていないことに反対しています。これは、電気ショックが動物たちの感覚を麻痺させることによって苦痛を感じさせないとするのを前提としたものですが、より信頼性のある見解としては、それは単に屠畜場のような大規模な施設で動物たちを操り易くするだけのものであるというものです。近代的な気絶処理には以下のようなものが存在しています。



機械的手法

・ 家畜銃ピストル (CBP) :

この手法はすべての家畜やウサギに対して広く行われているものです。火薬 (カートリッジ)、圧縮空気、そしてシリンダ内で滑道するピストンが、家畜の頭部にボルトを打ち込みます。この種の気絶処理は屠畜業において一般的に普及しています。ボルトは銃身から放たれますが、直後にピストル内に戻るようになっています。

・ 脳しんとうによる気絶 :

この道具は脳への衝撃によって脳しんとうを引き起こします。牛、羊、子牛、ウサギに対して用いられます。

・ 弾丸 :

イノシシ、野牛、馬などの扱いの難しい動物や緊急時などに用いられます。

動物を気絶させた後には、脳 脊髄組織を破壊する「ピッシング」作業が行われます。つまり、ボルトによって開けられた穴の中にワイヤーを挿入し、脳の下部と脊髄上部を破壊します。これらの全ての手法において、頭蓋骨の貫通による脳挫傷、または貫通なしでの打撃による脳しんとうによる意識不明の状態が引き起こされます。動物が気絶した後は、脳への血液の供給を止める「スティッキング」と言われる放血作業がなされます。動物は気絶した後、放血されることによって絶命します。業界はスティッキングの後も肉と血管から血液が流れだすよう、可能なかぎり心臓の鼓動を持続させるよう求めます。これによって肉の質と新鮮さが保持されるのです。

電気ショック



頭部ショック気絶法：牛、羊、ヤギ、ダチョ

ウはこの手法によって気絶させられます。この手法では二つの電極が動物の側頭部にあてがわれます。このように脳へと電流が流されることにより、動物は一時的に気絶するとされています。

心停止気絶法：

牛、羊、豚、ウサギ、ヤギに対して用いられます。電流が頭部と胴体に同時に、またはまず頭部に流され、次に胸部または頭部と胴体同時に流されます。



水槽気絶法：これはニワトリ、七面鳥、ガ

チョウ、カモに対して広く用いられている手法です。この手法によってこれらの鳥はコンベヤーのベルトによって逆さまに吊るされ、通電する水槽の中に浸されます。鳥の頭部がこの水の中に浸ることによって感電死が引き起こされます。近年では鳥が心停止によって確実に死ぬよう、電流の強さが引き上げられています。

ガス処理

鳥は檻の中から二酸化炭素やアルゴンガスによって気絶させられる場合もあります。豚は二酸化炭素によって窒息させられます。

スティッキング

この手法では、動物の喉 首にナイフが突き通され、脳への血液供給を急激に無くすることによる脳死を引き起こします。

こうした手法で動物は苦痛を感じるのか？

様々な研究によって、既述されたような手法を用いて動物たちを気絶をさせることは、不必要な苦痛を与えていることが示されています。家畜銃ピストルに関しては、ドイツの大学によって以下のような研究結果が示されています。

1. 動物たちはショックを与えて間もなく意識不明となった。
2. 脳波図はショックの直後に激痛があったことを示した。
3. 家畜銃ピストルによるショックを受けた動物の心臓は、ハラールの手法によって屠畜された動物に比べて早く鼓動を止め、結果的に肉の中により多くの血液を留めさせた。これは消費者にとってより非衛生的な肉を提供することになる。

動物たちは気絶したとみなされたにも関わらず、それらはショックによる激痛を感じていました。そしてそれは、イスラーム的手法においてはみられないものなのです。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/314>

Copyright © 2006-2012 www.IslamReligion.com. All rights reserved.